
申原寛治

議長（村松 積）次に、2番、申原寛治君、質問を許します。登壇願います。

2番、申原寛治君。

2番（申原 寛治） 2番、日本共産党の申原寛治です。

まず、最初に、先ほど来お話がありましたように、残暑の中で衆議院の選挙が行われました。自民党を中心とした政権がほとんど半世紀続いてきたわけですが、この間の一連の規制緩和などにより派遣社員が急増したり、ワーキングプアなどの低所得者が生まれる中で、国民の間に格差が拡大しました。また、福祉予算の切り捨て等により庶民への負担が押し寄せてきました。これらにより2年前には、参議院選挙では民主党を中心とした勢力が過半数を占め、衆議院との決定が違うねじれ現象が起こっておりました。そして今回、衆議院選挙においては完全に自公政権を大本から変える大嵐が吹き、民主党が大勝しました。

選挙では選挙政策、マニフェストが発表されるようになりましたけれども、新政権には国民の政治を変えようという熱意の実現と、真に国民生活の向上のための公約実現には精一杯の努力が必要であると思います。

日本共産党は、大嵐の中でも得票を増やしましたが、議席増には至らず、現状勢力を維持しました。今度民主党を中心とした政権が誕生しましたら、良い政策には協力、悪いことにはきっぱり反対をして、国民が選択した変革の波が一步でも二歩でも前進できるように、建設的野党として国民要求の実現に努力いたしたいと思います。

それでは先に通告してあります村民生活に直結した2つの質問をいたします。

最初に福祉バスについて伺います。

先日7月16日に、日本人の平均寿命が発表されましたけれども、女性が86.05歳、男性が79.29歳ということで、いずれも過去最高を記録しました。長寿は大変おめでたいことです。

元気で長生きする、これは誰も望むところでありますけれども、自分のこと、身の回りのことは自分でできるということが理想なわけです。寝たきりになったり介護に頼らないようにするために常日ごろからの各個人の心がけや行政や地域ぐるみなどの啓蒙活動や訓練などが必要であります。

下條村では、65歳以上の方や障害者の方で、車で移動できない方のために無料の福祉バスを週5日運行させております。これにより主に村内での買い物、通院などの日常生活の手助けや介護予防事業等への積極的な参加が可能となり、高齢者の足としてなくてはならないものとして定着してきていると理解いたしております。

そこで1つお聞きいたします。

高齢化が進む中で、福祉バスの活用はただいま申し上げましたように、その必要が増していると思いますけれども、現在福祉バスの利用者が約1日40人とされています。福祉バスの活用状況の内容や推移、これからの利用見通しについてどのように考えておられるか。

また、ダイヤ等の変更で検討されていることがあるかお聞きをいたします。

2つ目には、利用者は70歳以上の方が多というデータが出ておりますけれども、足腰の不自由な方が利用するというので、特にバスの乗り降り、困難なことはなかったか。あったとすればどのような例で、どう改善してきておられるかお聞きいたします。

3つ目には、先日福祉バスが新しく購入されました。今、足腰が悪い方が乗り降りすると申し上げましたけれども、私の考えでは例えばステップが上がるようになればいいかなと、そういうこともありますけれども、以前よりずっと乗りやすく降りしやすくなっていると思いますけれども、長生きする方が増えて自分のことは自分でしたいということの要求の中で、福祉バスもう少し例えば車いすで乗れる方、そういう方がパワーリフトバスというんですかね、こういうものも今後考えるときがくるのではないかと思います。今後どのようにお考えになっておるかお聞きいたしたいと思います。

次に、6月末にありました凍霜害について質問をいたします。

これにつきましては、6月議会でも質問いたしましたけれども、被害面積が33.5ヘクタール。これはひょう害の約半分の面積なんです。被害額が約2,800万円というふうにお聞きしております。ひょう害の時よりも被害が1カ所に、一定箇所に集中して、収穫がゼロではないかと思われる果樹園もありました。県内での凍霜害、ひょう害は、各地の異常気象等もありまして、今年も全国で起こっておりますけれども、県内の被害額が約5億9,000万円というふうにお聞きしております。

このところの景気低迷や異常気象による農産物の品質低下などにより、生産物価格は低

迷して、一方で資材である肥料などの値上がりが続いており、農家の皆さんは大変ご苦労されておると思います。収穫が減りましても、資材等肥料、消毒等は同等に必要ですから、これにより経営の悪化や生産意欲が減退してきているのではないかと心配されます。今、収穫も開始されている中で、被害状況も以前と比べますと確定してきていると思いますが、行政としてぜひ被害農家に支援をしていただきたいと思います。

この間の被害状況等の推移などもご報告いただく中で、前向きな支援を検討いただきたいと思います。

以上、ご答弁をお願いいたします。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願います。

村長（伊藤 喜平） お答えいたします。

最初に福祉バスの問題でございますけれども、利用状況、これ今申されたように1日約40人ということでございます。しかも無料ということでございまして、各町村はそれぞれに泰阜村と売木村を除いて各町村はそれぞれ自己負担をしておっていただくわけでございますけれども、下條村はすべて無料ということでございまして、ご承知のように1日おきに陽阜、睦沢というふうに運行しております。

今、問題点は何かということになると、大久保、小松原、それから中島、この関係についてはお客さんがいないと回らないように今しております。何でも空っぽで空気運んでおればいいということでないし、利用者があまりにも各駅停車だとかえって不便になるということございまして、今の新幹線なんか見えますと、昔はこだまでございました。今、こだまに乗るのはほとんど少なくて、ひかりでありのぞみであるということで、時間というのもみんな望んでおるのかなということでございます。

それじゃ中島と大久保と小松原どうするかというと、デマンド方式で朝電話区をくださいよと必ず回りますと、このことをやっておっていただいて今問題はないと思います。女性が8割で男性が2割という利用でございます。

利用別には5割がいきいきランド、それから診療所へ行く皆さんと各教室、デイサービス等にも通うのが5割。3割がショッピングでございまして、JAパークとかショッピング陽阜、2割が温泉利用とこれが大まかな利用の内容でございます。

地域別では6割が親田、4割が陽阜という報告を受けております。

ダイヤ検討については、全然問題がないということで、何ら村にもきておりません。

前は手を挙げたら止まってくださいとか、いろいろのことがありましたけれども、これはもう絶対いけないことをごさいます、国道を特に走るのに止まってはいけないとこを止まったり、それから発進したり、また止まってはいけないとこを降りたりということ、これ非常に交通の要するに安全ということと、乗降客の安全、こういうことでこれは現に謹んでおるところでございます。

乗り降り、今ご指摘のようにステップバス。最初にステップが出ます。そしてあと3段で合計4段で手すりもついて上がれるようになっておるので、問題はないと思います。

車いすなんか乗れるようにしたらどうだということでございますけれども、これは考えておりません。車いすがどうしても必要ならば車いす専用の小さなバスで動かすべきであるということで、今はまだその要望もございません。

4WDにいたしました。相当悪路でも行けると悪条件でも行けるとということと、まず第一に運転手さん非常にこれベテランをつけておるわけでございますので、きめ細かくやっておっていただいて感謝しておると同時に、これからもそんなものは続けていきたいと思っております。

次に、凍霜害でございますけれども、確におっしゃるとおりでございます。これはなかなか難しい問題でございます、私も実際現場回らせていただいて、あるところでは非常に壊滅的な状況を受けております。これについては、まず基本は共済に入ってくださいということでございますけれども、凍霜害というと豊丘で8月29日にひょうが降りました。豊丘1件で5億円を超すというの、今長野県で今年は全体で5億円をちょっと切るくらいでございますけれども、1つの村で瞬時にひょうでやられてしまい、そしてこのごろも行って見ましたけれども、まだ木が荒びてしまってどうしようもないということで苦労しております。

ところが彼らの共済加入率というのは7%から8%でございます。下條村は70%80%でございます。その中で大変なことをしちゃったわけでございます、今豊丘でもやっと思い腰を上げて村を挙げて共済加入やっておるところでございますが、そうはいつでも共済金といってもばかにならない金額でございます。そういうことで広域では、共済掛け金の2割は補助しておるところでございますけれども、これらももう少し考えなければ

いけないなということを考えております。

これから先ほど宮嶋議員が申されたように、異常気象という言葉はこれからなくなるといふ。異常気象が正常気象になるというこの現状でございますので、それにいち早く対応するには、やはり村は村で一生懸命また今も共済もつついてやっておりますけれども、自己防衛、そのためには何とか共済入っておかれるということも必要かなということでございますので、状況によって村は村で一生懸命やっておる分野と、それから基本的には異常気象という言葉がなくなるくらい異常なことがこれから多発するということでございますので、そうした時代にきっちりと真っ正面から向き合うこの施策というか心構えというの、これ経営安定のためには必要かなと思っております。

そんなことでご理解いただきたいと思っております。

議長（村松 積） 2番、串原寛治君、再質問ありましたら。

2番、串原寛治君。

2番（串原 寛治） 福祉バスのことで今お答えをいただきましたけれども、1日の方が平均が40人ということは、例えば朝こちらに来る方が20人で、またそこから乗っていく方が20人というふうに理解いたしますけれど、平均ということになりますと25人乗りのバスもっと大勢乗る、20人以上乗るということもあると思うんですけれども、そういうときにはどういふときなのかなとちょっとお聞きしたいと思うわけですが、今特に問題もないというお話でありましたんですけれども、バスを利用する方はやっぱりお年寄りの方、一人暮らしの方、あるいは昼間家族がお勤めの方というのが多いわけなんですけれども、乗り降りでは先ほどちょっとお話ししましたけれど、乗り降りの4段というお話がありました。それに上るのがなかなか大変であるというふうに理解をいたします。ですから乗っている方が手をさしのべて、もちろん元気な方がということですが、それぞれ自助努力でやっていると思うんですけれども、運転手さんはベテランの方ですし、申し分ないと思いますし、いろいろ弾力的にやっていただいていると思うわけですが、その方が乗っている方の乗り降り、それから移動中の管理ということは当然できなわけでありまして、ぜひそこら辺はどなたか村内近いとは言いますが、介助するような方がおれば最高であるなという意見もお聞きしておりますので、その辺を考えていただきたいなというふうにぜひ思います。

それから凍霜害のことですけれども、梨の被害が一番多かったわけですけれども、私の聞いたところではこれ薬剤だけですけれども、1反歩で約4～5万円かかるというふうにお聞きしております。梨あたりは経営面積が多いわけですから、1町歩といいますと40～50万円かかるというふうに考えます。それが収穫がなければすべてマイナスになってしまうというふうに考えます。

また、その次には柿が多いわけですけれども、先ほどのご答弁で共済の対象入るというお話ありましたけれども、これは過日答弁ありましたようには入れません。

それで柿ですと、これがやっぱり薬剤費が1反歩で約2万円くらい、肥料ですと2万円くらいこのようにかかるというふうには私は計算しております。

ですからこの辺のことも考えていただきまして、被害状況がだんだん分かってくる中で、JA等も独自に補てんを今検討されておるといふふうにお聞きしておりますので、ぜひ村でも検討をいただきたいと思いますが、再度その辺についてお答えをいただきたいと思えます。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 先ほど申しましたように、40人ということでございますけれども、乗って村中を40人が回っておるといふことではございません。

私もトラック経験があるんですけれども、こういう場合に一番いいカウントの仕方というのは、荷物でいうとキロトンというのがございます。何キロを何台で運んだというのがキロトン。今度リニア新幹線もそうでございますけれども、乗車人員、キロ人員、何人が何キロを走ったかという、こういうカウントの仕方がすぐ分かるわけでございますけれども、そうするとこれに当てはめると40人がびっしり乗ってこうでなしに降りて乗って降りておると、これが乗り合いバスの通例でございますので、そういうことで問題もないということ。

それからお年寄りの方でも、そこらはやはりまた地域の皆さんが助け合って、あれに1人助手が乗って「いかがでございますか」ということも15センチくらいかな、ワンステップが、こんなもんでございますので、これは何とかお互いに助け合いの形でやっていただきたいと思えます。

それからまた被害の問題でございますけれども、実態が出るまでまた私どもはそれも踏

まえて検討しておるところでございます。

農協が補てんするということでございますけれども、これは当然のことございまして、今までどうも農政に対して農協はどうも下がっていったということで、私もある機会に言いました。「皆さんは駄目だよ、売るだとかそういうことだけでは駄目です。もう少し、しっかりやってください」ということを正面切って言ったこともございます。

それから柿の問題でございますけれども、柿は確かに共済の対象になっておりません。しかし、柿の生柿の評価ということになると、柿は皮をむいて完全にすると相当の金額でございますけれども、生柿の評価、それから生柿の生産地の限定ということになるとなかなかこれは難しい問題かなということでございますが、これはいかんとも今のところでは仕方がないのかなと思っておるわけでございます。

その他の果樹その他については、今前向きに検討しておるということでございますので、ご理解いただきたいと思えます。

議長（村松 積） 2番、串原寛治君、再質問。

2番、串原寛治君。

2番（串原 寛治） 村でやられておる福祉バスは非常にいいことでありますし、子育て政策のほかにやはり高齢者も多いということで、ぜひ福祉バスを充実していただきたいところで質問しておるわけですが、手を貸してあげたいと思う方ももちろんおるようなんですけれども、自分が弱いとかえってそれによってその方は非常に老けちゃうことがあるんじゃないかという心配もあるということで、共倒れになってしまわれては困るという、そういう心配もあるようですので、ぜひまたご家族の方もそう思う方あるようなんですけれども、ぜひ村の福祉バスということで、福祉バスを時間外に朝とか夕方使ってというご意見もありますけれども、私はそれはそれでまた別に今公共交通が始まった中で考えていただきたいと思うわけですが、ぜひ村の福祉バスとして、必要に応じましては補助員等もつけていただきたいと思えます。

さっき人数が多いときがどういう時という、別にお話がなかったわけですが、少ないときよりか多いときの方がいろいろ運転手さんも気を遣うだろうし、かえってそのちょっとそれは注意散漫ということはありませんけれども、気が配りきれないんじゃないかということがありますと思いましたので、必要によってはこれもぜひ考えていただきたい

と思います。

それから凍霜害ですけれども、いろんな調査が県であったと思います。いろいろ対策を考えられていると思いますけれども、私のお聞きしたところでは被害農家に自治体で支援をすると補助も検討されておるといふふうにお聞きしましたので、ぜひその辺考えていただきまして問い合わせさせていただく中で、もし半分助成があるとするならばそれ以上の倍の補助ができるということでもありますので、ぜひここは農業も大事な基幹産業でありますので、農業者が経営をされて、引き続き経営を持って再生産ができるように精一杯のぜひ支援をいただきたいと思うことで、最後のご答弁をいただきたいと思います。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 福祉バスについては分かっていたと思いますけれども、何かイベントのある場合、この場合はまた別に出しております。もしどうしてもその40人でぎちぎちで乗れんようになるということになれば、今この村から2～3分で車で飛んでいける場所ばかりでございますので、4～5分で飛んでいける場所ばかりでございますので、それは臨機応変にやっております。

それから農済被害につきましては、皆さんは非常に心配しておりますけれども、議員の心配の5倍くらいこっちは心配して真剣にやっておるところでございます。

まだあまり大きいこと言ってまた「違うじゃないか」ということでは困るわけでございますので、より慎重に前向きにやっておるといふことをご理解いただきたいと思います。

議長（村松 積） 以上で日程第3、一般質問を終わります。

ただいまより昼食のため休憩と入ります。

13時30分から再開をいたしますので、よろしくお願ひしたいと思います。

休 憩 午後 0時23分

再 開 午後 1時30分